

東日本大震災時のオープン病院の救急対応状況

今回の震災に対する病院の救急対応は以下の3期に分けて提示する。

第Ⅰ期：3月11日～15日

震災により電気・水道・ガス等のインフラは停止し、また、C棟3階の吸水管が破損しC棟2階ICU及び救急センター患者待合室は水浸しのとなり、さらに病棟・医局・事務のロッカー・ラック・本棚は倒壊し、収納されていた本・書類・物品の大半が床一面に散乱している状況で、C棟に入院中の患者をB棟に退避させた時期に相当。

	3月11日	3月12日	3月13日	3月14日	3月15日	計
受診患者数	73	249	188	257	104	871
外傷患者数	25	123	67	85	19	319

この時期は病院機能も一部麻痺しており受付が通常通り行かないためトリアージタグを使用し患者の受け入れを行った。この時期の受診患者総数は871名で317名は打撲・切創・挫傷・骨折等の軽症～中等症の外傷患者であった。救急車による搬送は97件で89名が入院し、初日に4名がERにて死亡確認された。周辺の施設に被害も大きく宮城野分院5名、スペルマン病院3名、厚生年金病院4名の人工呼吸器装着や気管切開後で吸引を必要とする患者や心不全の入院患者の受け入れを行った。又在宅人工呼吸器装着患者1名、HOT中の患者18名の受け入れも行った。また被害の大きかった石巻地域より石巻日赤／市立病院入院中の患者16名の受け入れも行った。

* 骨折患者も24名見られ転院搬送となった事例もあった。

* この期間12日は山口尚先生、13日は伊藤賢次先生さらに14日には磐井病院の中山明生先生が病院に駆けつけ外来診療のお手伝いを頂きました。

第Ⅱ期：3月16日～21日

一部インフラが回復（電気・水道）し、外来を再開した時期。

この時期になっても周辺の施設は十分な病院機能が回復していないためER受診患者は517名に上り、救急車受け入れも119台でした。この時期の入院患者は94名（ER経由のみの人数）で半壊した介護施設や避難所からの入院も多く見られるようになりました。この時期のCPA搬送事例は3名でした。

またこの時期には調剤薬局が機能し始めたため被災者等の院外処方箋の発行も行っております。（計476）

第Ⅲ期：3月22日～31日

ガスも回復し病院機能も回復した時期です。またC棟の安全確認がなされ退避させたC棟の入院患者を再度C棟に移動した。この時期のER受診患者は464名に上り、救急車受け入れも162台でした。また入院患者は140名（ER経由のみの人数）と例年よりまだ多い状態でした。周辺の医療機関の機能がまだ十分に回復していない為と思われます。この期間のCPA患者は9名でした。

まとめ

震災発生後より 3 月 31 日までの期間の受診患者総数は 1852 名で入院患者は 378 名でした。他病院入院中の受け入れは 31 名で、在宅人工呼吸器 1 名、在宅 HOT18 名の受け入れも行いました。救急車受け入れは 378 台で、発災直後の 5 名を含む 17 名が ER にて死亡確認されております。その他被災者の為の処方箋の発行も 476 件行いました。